

【宇治市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

宇治市では、令和4年度に「第2次宇治市教育振興基本計画」を策定し、取り組む各施策においてICTを積極的に活用して取り組むこととしています。

また、令和6年度には、特に教育ICT化の観点から「宇治市教育DX推進計画」を策定し、デジタルかアナログかといった二項対立ではなく、ICTを活用した学習活動に積極的に取り組み、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、情報活用能力や課題解決力を育み、自ら学び方を選択し、新しい価値を創造できる児童生徒を育成することとしています。

2. GIGA第1期の総括

宇治市では、GIGAスクール構想に基づき、令和2年度にすべての小・中学校に1人1台端末を整備し、学校のICT環境の整備を進めるとともに、学習でのICT活用を推進してきました。

ネットワーク環境については、1人1台端末整備時にインターネットの接続方式をセンター集約からローカルブレイクアウトに変更、令和3年度に実施したネットワークアクセスメント調査を踏まえ、令和4年度に無線アクセスポイントを全校に増設、また、一部の学校ではインターネットプロバイダをIPOE接続に変更するなど、ネットワークの安定性と速度の向上に努めてきました。

その他、学習支援ソフト、大型ディスプレイの整備やICT支援員を配置し、児童生徒の意見共有や共同編集、端末を家庭に持ち帰り、デジタルドリル等を活用した家庭学習を行うなど、端末の活用は日常的になってきており、「令和6年度全国学力学習状況調査学校質問紙」における授業で1人1台端末を週3回以上活用している学校の割合は、小学校、中学校ともに100%です。

一方、学校間でICT活用状況に差があるため、研修を通じて、教員のICT活用指導力の向上や意識改革を図るとともに、校務DXの推進によりクラウド活用のよさを実感し、主体的にICTを学習指導に生かせるように環境整備に取り組む必要があります。

また、端末活用の場面では、児童生徒が自分で調べる場面での活用頻度と比べると、児童生徒が考えをまとめ、発表・表現する場面や児童生徒同士がやりとりする場面での活用頻度は低い状況であり、活用頻度という量的な視点だけではなく、児童生徒の資質・能力の育成につながっているのか等、質的な視点での活用重点を置く必要があります。加えて、ICTならではの特性や強みを活かして、多様なニーズに応じた支援もより一層求められています。

3. 1人1台端末の利活用方策

宇治市では、GIGAスクール構想第2期において端末を更新し、児童生徒1人1台端末環境を引き続き維持するとともに、その効果的な活用促進に向けて、取り組みを進めます。

(1) 1人1台端末の積極的な活用

教職員研修や指導主事による指導助言、各校のICT担当教員が参加するICT利活用推進会での実践事例交流等を通じて、教員のICT活用指導力の向上に取り組む

とともに、本市教員による教育研究員がICTを効果的に活用した授業設計力の向上について実践研究を進め、引き続き、授業改善に取り組みます。

学習における様々な場面において、ICTを活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実できるよう、教員が活用場面を積極的に設定することで、児童生徒が自ら選択して端末を活用できるよう発達段階に応じて指導します。

また、児童生徒が自分のペースや習熟に合わせて、学習を進めることができるようにデジタル教科書やAIドリルの活用促進を図るとともに、学習支援ソフトを活用し、共同編集などのより実践的な活用の推進を図り、児童生徒一人ひとりにとって自分らしい学びの実現を目指します。

(2) 多様なニーズに応じたICT活用

障害のある児童生徒や外国人児童生徒等、特別な支援を要する児童生徒の学習活動を行う場合に生じる困難さに応じて、ICT機器やデジタル教材や支援機器を活用し、指導方法を工夫します。

また、健康観察アプリの活用により児童生徒の心や体調の変化の早期発見・支援を行うとともに、不登校児童生徒、一人ひとりの状況に応じて、ICTを活用した学習や相談の機会を提供するなど、多様なニーズに応じた学び方や学びの機会を創出します。